



特別養護老人ホーム豊厚園 園長
Vol.27 ^{みうら やすひろ}
三浦 康弘さん

道場に響く息遣い。風を切る竹刀。特別養護老人ホーム豊厚園の園長などを務める三浦さんは、剣道7段の実力者。札幌市で行われた全国健康福祉祭剣道交流大会の65歳から69歳の部で優勝し、北海道代表チームの副将として、11月に神奈川県で開かれる全国大会に出場します。三浦さんを訪ね、竹刀に込める思いを聞きました

“恩返し思い竹刀に込める”

後志管内の喜茂別町出身。剣道を教えていた父の知人から誘われ、6歳から剣道を始めました。「一度決めたこと、人との約束は、最後まで貫きなさい」。今も父親の教えを守り続けています。人との信頼関係を壊さないため、常に自分を律しています。幼少のころ、友人と遊びに没頭して稽古に間に合わなかったことがありました。玄関先で仁王立ちの父から「いい加減な態度なのであれば、辞めてしまえ」とびびく怒られました。「今でも、あの言葉は耳に残っていて、私を鼓舞します」。

道職員を早期退職し、平成26年4月に厚真福祉会の常務理事から誘われて現職へ転身し、妻と共に厚真に移住しました。忙しい仕事の合間を縫って厚真剣道連盟の道場に通ったり、星空の下で素振りを続けています。職場の皆さんが、今回の試合で心の支えになりました。胆振東部地震後の対応や新型コロナウイルス感染症を発生した利用者

への対応も経験。「困難を乗り越える職員の精神力が試合前に脳裏をよぎり、私を後押ししてくれました」。全国大会への切符は、職員と共に勝ち取った成果でもありました。

三浦さんは、相手に合わせて戦術を変えず、真つ向勝負の「面」にこだわります。対戦相手の最も遠い部分が面で、冷静な判断と勝負度胸が必要です。今大会でも、面で勝ち上がりました。「記憶や竹刀の感触は覚えていません。無の境地でした」。

三浦さんには2つの目標があります。剣道の愛好者を増やすことと、最高位の8段への挑戦です。「昔は、大勢のこどもたちが竹刀を握っていました。当時の活気を取り戻し、町を元気にしたいと思っています。精進あるのみです」。

北海道代表の誇りと郷里への恩返しを胸に秘め、「全国舞台で竹刀を躍動させます」。